

交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成 28 年度 実績報告書

交 野 市

平成 29 年 11 月

[議題 1] 28 年度に実施した個別事業の報告と K P I の進捗状況

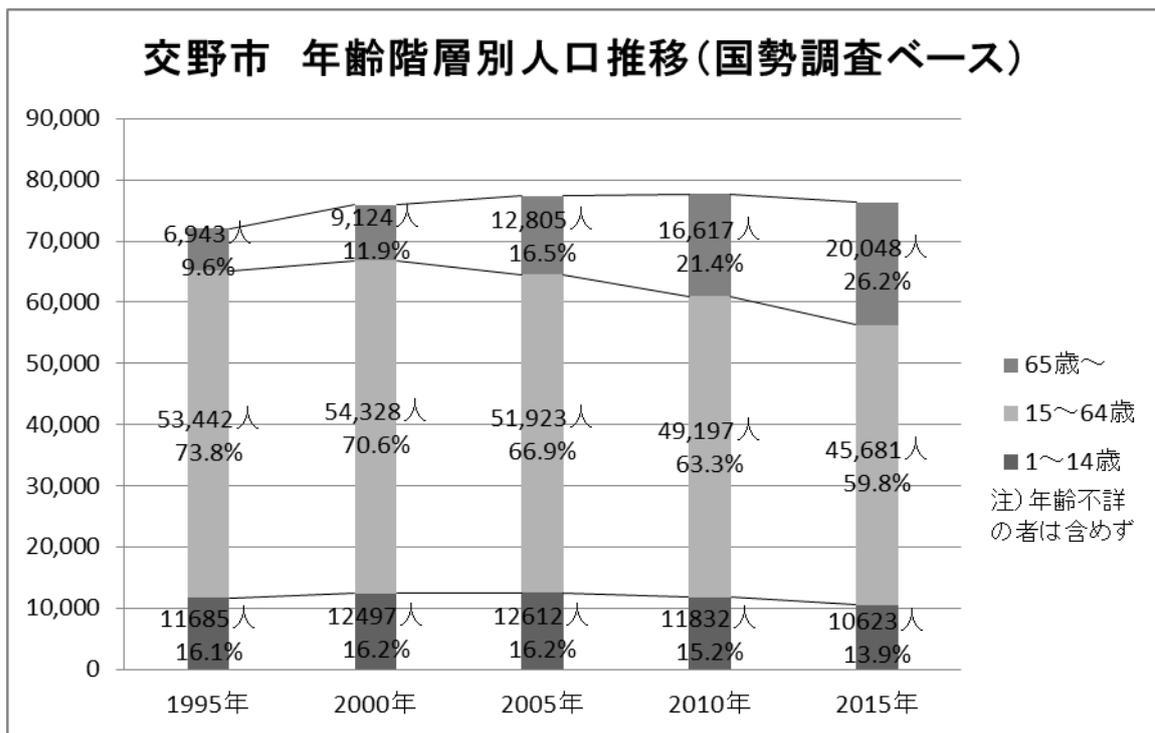
1. はじめに

交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、少子高齢化の進展への対応や、東京圏への人口集中の是正を目的として国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方を基に、本市における「人口減少と地域経済縮小の克服」と、「まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」を目指し策定された。

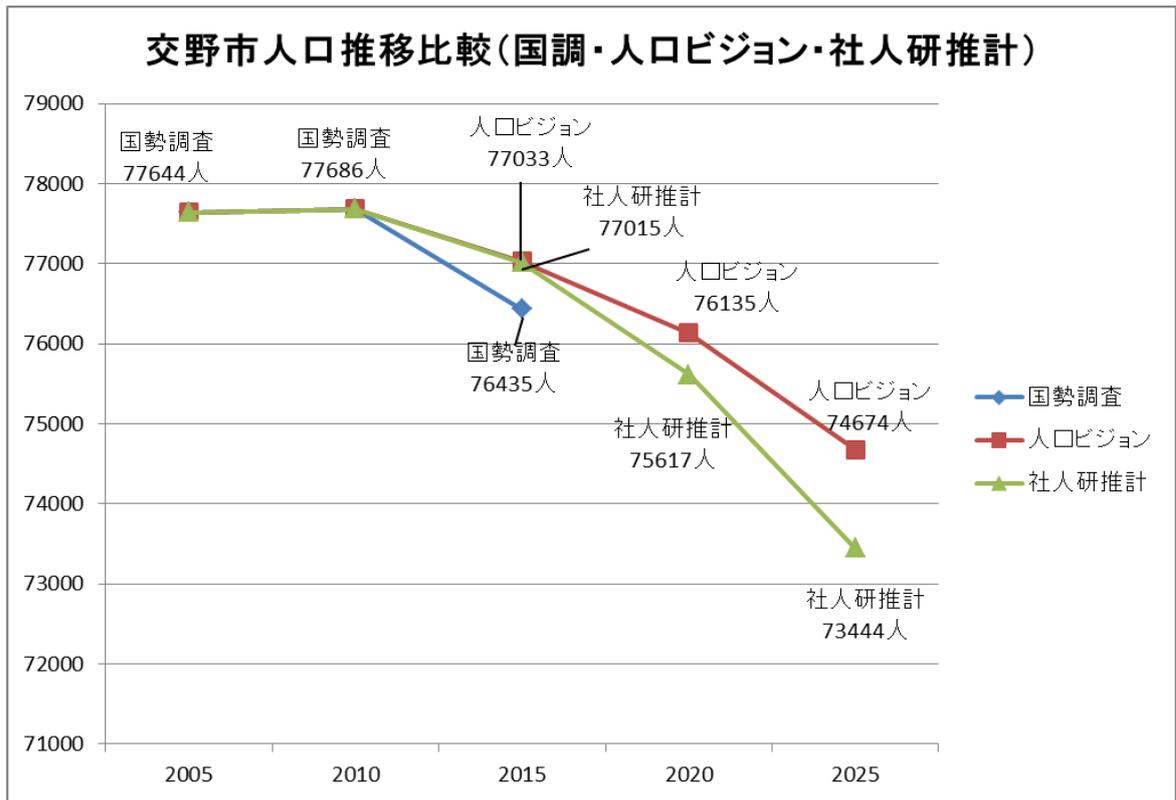
戦略を組み立てるにあたっては、「交野市人口ビジョン」で示された人口推計や、あるべき人口の将来展望を基礎として、その実現にむけた取組みを、4つの基本目標に体系化した。

2. 交野市人口ビジョンの推移

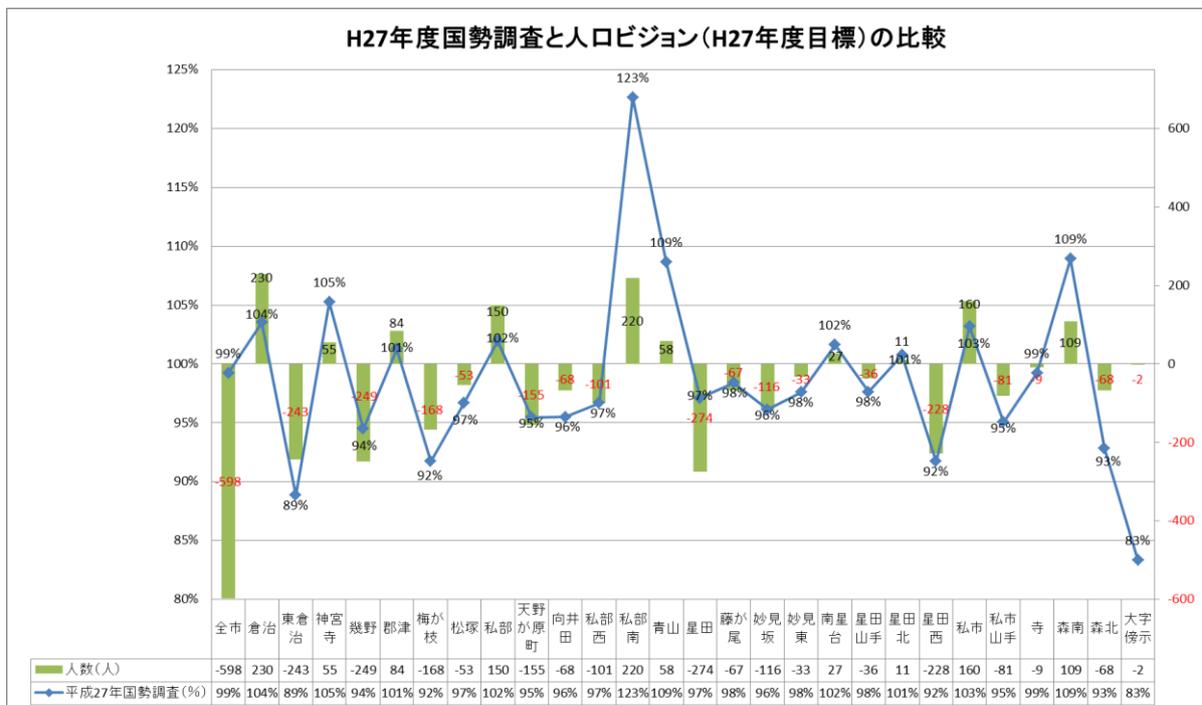
交野市人口ビジョンは国勢調査による統計数値を基礎としている。策定時には直近の調査結果が 22 年だったが、28 年 10 月に 27 年の数値が示されたため、ビジョンにおける推計値との比較を行った。



- 27 年（2015 年）の国勢調査結果によると、本市人口は 76,435 人であった。（22 年と比較し、1,251 人の減少）
- 人口減少、少子高齢化の傾向が顕著に表れる結果となった。
- 高齢化率の目安でもある 65 歳以上の市民が全体の 4 分の 1 を占める結果となった。なお、高齢化率の全国平均値は 26%（27 年版高齢社会白書より）。



- 27年国勢調査数値と人口ビジョンによる推計値との乖離は、598人のマイナスであり、予測より減少が進んでいる結果となった。
- 人口ビジョン推計値の時点修正については、次回国勢調査を待って行うなど、その時期や実施方法について検討を進める。



- 大阪府警察学校の廃止や、新規の大規模開発地などの要因で、予測との乖離が生じている。

3. 個別事業の実施状況及び検証

(1) 検証にあたっての留意事項

- 28年度における総合戦略関連事業の検証は、「4つの基本目標」ごとに実施した。
- 一部の数値目標については、指標の妥当性の観点より、数値の見直しを行った。
- 一部の事業については、より事業効果が高まるよう、実施形態の見直しを行った。
- 数値目標及びKPI（重要業績評価指標）は、各種統計や市民アンケートにより収集しているが、一部の数値については、アンケート手法や調査時期等の関係上、未取得となっている。
- 戦略では28年度の目標数値は設けられていないが、参考指標として記載している。

(2) 個別事業の状況

《基本目標1》 子育て世代が魅力を感じるまち

①施策体系と実施状況

基本的方向	具体的施策	関連事業	実施状況
子育て・親育ちを応援する取り組みを進めます。	子育て世帯の負担を減らす施策	子育て世帯定住促進事業（医療費助成）	27年度から継続実施。子育て環境整備に一定の成果が出ている。
		子育て応援プラン事業（おりひめ教育ローン）	実績が伴っていないため、事業内容の見直しを実施。
	気軽に子育てが相談できる場所の開設	妊娠出産子育てにおける切れ目ない支援事業（ガイドブック・コンシェルジュ）	妊婦に対し保健師が全件面接を行い適宜フォローするなど、よりきめ細かな対応を行っている。
	親も子どもと一緒に成長するための施策	家庭教育学級の拡充（親学習事業）	子育て中の親の情報共有の場として一定の成果が出ている。
		親になるため学習事業	第四中学校1年生を対象に実施。概ね満足度が高かった。
		育児に前向きな企業の顕彰事業	未実施。基本目標2の「女性のためのチャレンジ支援事業（積極企業顕彰）」と統合実施予定。
子どもがいきいきと育つ取り組みを進めます。	魅力ある幼児教育の推進	魅力ある幼児教室の推進事業（運動教室）	27年度から継続実施。体力データ、保護者満足度ともに高い。
	幼・保・小連携への取り組み	フォローアップ事業（心理発達相談員による小学校への情報伝達）	幼保小のスムーズな情報連携を行うことで、一定の成果が出ている。保護者満足度も高い。
	いじめ・不登校のないまち	スクールソーシャルワーカー活用事業	スクールソーシャルワーカーの支援により暴力行為は半減、不登校生徒数も微減と成果が出ている。

②数値指標の推移

項目 (●：数値指標 ■：KPI)	26年度 (基準値)	27年度 実績値	28年度			31年度 目標値
			実績値	目標値	達成度	
●出生数	572人	565人	556人	569.2人	97.68%	565人
●希望する子供の数と現在の子どもの数の差(平均値) ※1	0.6人	-	-	-	-	0.4人
●交野は子育てに適していると思う人の割合 ※2	43.90%	85.92%	87.20%	86.94%	100.30%	90.00%
■子育て応援プラン(教育ローン)の利用者延べ人数	-	未実施	2人	240人	0.83%	960人
■コンシェルジュを利用した人の満足度	-	未実施	データ未取得	-	-	80%
■育休推奨企業顕彰述べ件数	=	未実施	未実施	=	=	92件
■フォローアップ事業により切れ目なく支援が実施されていると感じる人の割合(学校)	-	88.90%	100.00%	90.43%	110.59%	95.00%
■フォローアップ事業により切れ目なく支援が実施されていると感じる人の割合(保護者)	-	75.00%	79.00%	76.25%	103.61%	80.00%
■認知されたいじめの件数	5件	33件	19件	4.6件	未達成	4件
■認知された不登校の件数	35件	26件	28件	31件	未達成	25件

※1 子育て世帯に対するニーズ調査に基づく。次回調査は31年度。

※2 アンケート実績より31年度目標を再設定した。(変更前：48.30%→変更後：90.00%)

③進捗と効果

- 9つの関連事業のうち、次の2つを除き着実に実施されている状況。利用者の満足度も概ね良好といえる。29年度においても、より事業効果が高まるよう修正を加えつつ取り組んでいるところ。
- 成果が乏しい教育ローン事業については、担当課にて制度の仕組みや運用方法について見直しを行っている。育休推奨企業顕彰事業は、他の企業顕彰と併せて実施をすべく見直しを行っている。
- 数値目標の推移では、一部を除き目標値との乖離が少なく、進捗は概ね良好といえる。
- 基本目標である「子育て世代が魅力を感じるまち」の実現に向け、これらの実施事業について認知し、活用いただけるよう、当該世代へ向けての情報発信を行う必要がある。

④委員の意見

- 子育て応援プラン事業（おりひめ教育ローン）について、今年度新しい制度にするにあたっては、すでに推薦入学が始まっているのでスピードアップしないといけない。子育て世帯が増えているということだが、近居・三世帯同居などの支援の方は効果が上がっていると思うので、そちらに力を入れるのもいいと思う。教育ローンは持ち家比率が高い交野にはそぐわないのでは。子育て世代が返ってくるころにもっと予算をつけてはどうか。
- 子育て応援プラン事業（おりひめ教育ローン）について、奨学金は学生名義になるが、教育ローンは保護者名義になるので、子供に負担させないようにという考えの人には教育ローンという選択肢があるということがPRできているのか疑問。
- 奨学金は将来リスクを本人に持たせるので、責任感が出てくる面もある。
- 親になるための学習は現在第4中学校で実施しているが、ほかの学校への展開もしてほしい。
- 家庭教育学級はどこでやっているのか。学校を限定しているのか、全市的にしているのか、PRした方が良くはないか。
- 不登校を減らすという目標設定は、学校に行きたいと思ってもいけない子がいるので、表現としては不適當ではないか。

《基本目標 2》 多様な働き方に対応したまち

①施策体系と実施状況

基本的方向	具体的施策	関連事業	実施状況
起業・創業を応援する取組みを進めます。	起業・創業しやすい環境の整備	創業支援ネットワーク構築事業（市・商工会議所・金融機関の連携）	創業実績が目標を上回るなど、一定の成果が出ている。
働きたい人、働く人への取組みを進めます。	女性のキャリアを生かす仕事の場づくり	女性のためのチャレンジ支援事業（積極企業顕彰）	未実施。29年度は育休推奨企業顕彰とあわせて実施。
		働く女性支援事業（セミナー・インターン）	参加者が少なかったため、周知方法や内容の見直しを行う。
	働きたい人、働く人への支援	求人電子掲示板の設置事業（織姫ネット活用）	織姫ネット求人は継続実施中。一定の成果が出ている。
		スキルアップに対する支援事業（高校認定試験補助）	事業は実施されるも受験者実績なし。制度の周知が課題。
地域を元気にし、応援する取組みを進めます。	地域産業、地元企業を知ってもらい、就労につなげる施策	「農」のある暮らしの提供に向けたふれあいツアー	105人が参加し、満足度も高かった。
		地元企業・産業ふれあいイベント支援事業（交野めぐり）	工業会との合同事業。400人が参加し、8人の雇用創出という成果が出ている。
	地域に根差した魅力ある企業づくり	集客力向上支援事業（アドバイザー派遣）	年80件の相談支援を実施。制度の周知が課題。
		既存企業リノベーション支援事業	未実施。上記アドバイザー派遣事業と統合実施を行う。

②数値指標の推移

項目 (●：数値指標 ■：K P I)	26年度 (基準値)	27年度 実績値	28年度			31年度 目標値
			実績値	目標値	達成度	
●交野市内在住女性（30～34歳） の就業率	54.80%	-	63.16%	56.88%	111.04%	60.00%
●交野で雇用創出が必要だと思う 人の割合	75.40%	76.53%	74.71%	72.40%	未達成	67.90%
■創業延べ件数	-	-	3件	2件	150.00%	8件
■チャレンジ支援認定企業延件数	-	未実施	未実施	26.75件	-	107件
■高校認定試験受験希望者延人数	-	0人	0人	5人	0.00%	20人
■交野めぐり延べ参加者数	-	300人	596人	625人	95.36%	1600人
■国府補助制度の延獲得件数 ※	-	5件	10件	8.75件	114.29%	20件
■農業振興に係る市民満足度	2.926	2.741	2.682	2.980	90.01%	3.000

※ 当初の記載に誤り。「延べ」を含める。

③進捗と効果

- 10の関連事業のうち、次の2つを除き実施されているが、事業の周知などの課題も散見される状況である。29年度においても、より事業効果が高まるよう修正を加え取り組んでいるところ。
- 女性のためのチャレンジ支援事業（積極企業顕彰）については、29年度より実施。既存企業リノベーション事業は、企業への情報提供を主とする事業であるが、実施形態が近似する集客力向上支援事業とあわせて実施する。
- 数値目標の推移では、一部を除き目標値との乖離が少なく、進捗は概ね良好と考えられる。
- 基本目標である「多様な働き方に対応したまち」の実現に向け、個別事業のブラッシュアップのみならず、事業の周知・情報発信が必要である。

④委員の意見

- 女性のための企業顕彰だが、どういう基準でやろうとしているのか。顕彰の基準を決める際は、一部分だけ見て評価することがないよう、多様な部分で見ていかないといけない。
- 高卒認定試験補助制度について、中学校・高校やハローワークなどで周知してもらいたいと思う。
- 農業振興に関わる市民満足度が前年度と比較して下がっているため、どのような評価となるのか検証すべき。
- 今年度設置された農政課において農とのふれあい体験事業を実施しているほか、JAでも北河内で独自に実施しているが、両事業ともおおむね好評である。

《基本目標 3》 住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち

①施策体系と実施状況

基本的方向	具体的施策	関連事業	実施状況
多世代向けの多様な住宅づくりを支援する取組みを進めます。	移住・定住の促進	移住・定住促進事業（市内同居・近居助成）	問い合わせも多く、当初予測した15件分は全て申し込みで埋まった。（20万円/件）
資源を活用した交流人口の増加に向けた取組みを進めます。	世代にマッチした情報ツールによるまちの売りの発信	魅力発信事業（ふるさとチョイス）	27年度から継続実施。前年度と比較して実績が落ちた。
		魅力発信事業（HP全面リニューアル）	広報のアプリ化を実施。HP改修は29年度に実施。
	自然を活用したにぎわい創出に向けた事業の展開	かたのツーリズム（交野山ナイトハイク）	実施時期が悪く定員に満たなかった。29年度は民間事業者と協力し実施する。
自然を愛し、守り伝えるための取組みを進めます。	まちが一体となった環境美化	リバーフェニックス事業	未実施。実施方法を検討中。
		竹炭活用事業（小学校竹細工）	小学校2校で竹に関する環境教育を実施。生徒の満足度も高い。

②数値指標の推移

項目 (●：数値指標 ■：KPI)	26年度 (基準値)	27年度 実績値	28年度			31年度 目標値
			実績値	目標値	達成度	
●社会増減（転入者数－転出者数）	-86人	109人	68人	-50.8人	-	2人
●交野に住み続けたいと思う人の割合	69.80%	69.70%	74.68%	72.60%	102.87%	76.80%
■子育て世代同居・近居補助金申請件数	-	未実施	15件/年	20件/年	75.00%	20件/年
■ふるさと納税件数	86件	399件	124件	107.6件	115.24%	140件
■ふるさと納税総額	2,303千円	6,020千円	3,427千円	3,182千円	107.72%	4,500千円
■情報提供に係る市民満足度	3.183	3.122	3.109	3.191	97.42%	3.204
■成立カップル延べ組数	=	±	=	=	=	±
■年間観光客数	850千人	1,039千人	1,007千人	950千人	106.00%	1,100千人
■環境施策に係る市民満足度	3.094	3.599	3.459	3.114	111.09%	3.121

③進捗と効果

- 6つの関連事業のうち、リバーフェニックス事業を除き着実に実施されている状況。利用者の満足度も概ね良好といえる。29年度においても、より事業効果が高まるよう修正を加えつつ取り組んでいるところ。
- 前年から件数が減少しているふるさと納税は、29年度に返礼品の充実を予定している。
- かたのツーリズムは、29年度に交流人口増加を目的とした事業に内容を見直した。これに伴い、KPIを「成立カップル延べ組数」から、より妥当な指標である「年間観光客数」に変更する。
- 数値目標の推移では、一部を除き目標値との乖離が少なく、進捗は概ね良好と考えられる。
- 基本目標である「住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち」の実現に向け、シティプロモーションの観点からも、今以上に多様な情報発信が必要である。

④委員の意見

- ふるさと納税の返礼品の魅力には限界があるので、子どもの未来のための基金など、寄付先の充実に方向を転換してもいいのでは。市民の公益活動の資金になるような形でも検討していただきたい。
- ふるさと納税については意外とマイナスが多いなという感じ。返礼品は、モノより体験型がいいのではないか。
- リバーフェニックスが未実施だが、実際天の川の清掃活動を行っている団体の支援ができないかなど検討すべき。
- 子育て世帯が増えているということだが、いつからそれが始まっているかということも気になる。なぜ交野市に引っ越してこられたのかということが分かれば良いと思う。近居同居が多いのか、どのような地区にどのような物件を選ばれて越してこられたのかということが分かれば方向転換や、検討できるのかなと思う。

《基本目標 4》 地域を守り、地域の元気をつくるまち

①施策体系と実施状況

基本的方向	具体的施策	関連事業	実施状況
協働の仕組みづくりに向けた取組みを進めます。	市民活動支援制度の確立	市民活動支援に係るしくみの創設（モノシェア）	目標を上回る貸し出しを実施した。
地域の活性化に向けた取組みを進めます。	既存資源を活用した活性化	まちの図書館化事業	公共施設や協力金融機関店舗など 10 か所に 1340 冊のリサイクル本を設置した。
地域の健康を守る取組みを進めます。	健康づくりの施策	わがまちウォーキング事業	未実施。実施方法を検討中。
		ストレッチ体操促進事業（健康遊具）	未実施。実施方法を検討中。

②数値指標の推移

項目 (●：数値指標 ■：KPI)	26年度 (基準値)	27年度 実績値	28年度			31年度 目標値
			実績値	目標値	達成度	
●健康寿命（男性）	79.55 歳	-	-	79.95 歳	-	80.55 歳
●健康寿命（女性）	83.32 歳	-	-	83.72 歳	-	84.32 歳
●協働のまちづくりを更に充実させるべきと思う人の割合	61.40%	85.35%	84.51%	56.84%	未達成	50.00%
■市民活動を行う上で、市が所有する資源が活用される件数	-	0 件	40 件/年	20 件/年	200.00%	80 件/年
■図書館棚設置箇所数	-	未実施	10 箇所	6.25 箇所	160.00%	25 箇所
■歩くことが多くなったと感じる人の割合	-	52.34%	54.41%	54.26%	100.29%	60.00%

③進捗と効果

- 4つの関連事業のうち、健康づくりの施策を除き着実に実施されている状況。29年度においても、より事業効果が高まるよう修正を加えつつ取り組んでいるところ。
- 健康づくりの施策については、担当課にて制度の仕組みや運用方法について検討を行っている。なお、総合戦略記載外事業として「おりひめ健康ポイント事業」や「ノルディックウォーキング事業」を実施しており、健康づくりにおいて一定の動機づけとして機能していると考えられる。
- 数値目標の推移では、一部を除き目標値との乖離が少なく、進捗は概ね良好と考えられる。
- 基本目標である「地域を守り、地域の元気をつくるまち」の実現に向け、総合戦略に記載のある事業の着実な推進が求められる。

④委員の意見

- わがまちウォーキングやストレッチ体操促進など個人の自覚になるので、組織で動かないとうまくいかないと思う。医療費は会社も負担しているので会社も巻き込んで1 駅ウォークや自転車通勤を推奨するなど組織的にいかないといけないと思う。
- 違う意見となるが、すべての目標の説明を聞いているが、予算額が相当低い所がある。思ったより予算が低い。もちろんもともとある資産を使い、人材で頑張るという姿勢は大事であり、予算の高い低いだけではないが、総合戦略にかけのお金が少ないのに効果を求めるのはしんどいところがあると思う。未実施や成果がゼロの事業は、本当は効果が出るけれども予算がつかなかったのか、もともとダメじゃないかという予見があっただけでなかったのか、色々種類があると思う。ゼロでいったものをずるずるゼロでいくよりも、高い効果がある事業を選別してメリハリつけた方が良く思う。1 件あたり20 万円の近居同居の300 万円の予算を使い切っている事業で、子育て世帯を呼び込むのにどれだけ効果があったのか、ほかの市に行こうと考えた引き留めになったのか、最後の後追いになったのかを分析する必要がある。森林伐採で500 万をかけてやっている環境学習ですが「よかった」とアンケートでなっているが、先生や団体さんも含めて本当に良かったのか。費用対効果を見て考える必要がある。

(3) 総合戦略事業の全体的な状況

- 28 年度は、大半の事業が動き出しの年であったため細かな課題も表出したが、29 年度は所管課において改善を行いながら実施している。今後も、利用者である市民の満足度などを検証しつつ、施策目標に向けて、事業効果が高まるよう取り組んでいく。
- 次年度以降について、各事業において一定の成果が出たうえ、数値指標が順調に推移しているにも関わらず、人口減少に歯止めがかからない場合は、目標数値及び事業自体の妥当性について再検証する必要がある。

[議題 2] 28 年度に実施した地方創生加速化交付金を用いた事業の報告

1. 地方創生加速化交付金事業

国は、総合戦略に掲げる基本目標を達成する手段として、複数の基本目標を併せた政策間連携、複数の自治体の協力による地域間連携などの連携を推奨している。28年度は、国の地方創生加速化交付金の募集にあわせて、連携の仕組みを組み込んだ「天の川プロジェクト」、「かたの産業元気プロジェクト」の2つの事業群を立ち上げ、国の採択を受け実施した。

2. 天の川プロジェクトの実施状況及び検証

天の川プロジェクトでは、枚方市や京阪電鉄、大学などからなる協議会を推進母体として、共通の地域資源である七夕伝説や天の川、京阪交野線の活用をテーマに、「天の川ツーリズム」という名称で賑わい創出事業、広域観光事業を展開した。

(1) 天の川ツーリズム推進協議会

①28年5月に設立された協議会は、産官学連携によるプロジェクトの推進組織であり、個別事業の立案と進捗管理を行った。地方創生加速化交付金は28年度のみ支給だったが、広域観光の推進に有意義な枠組みであったため、両市からの負担金を財源として、29年度も継続している。

②構成団体

官：交野市、枚方市、大阪府

産：京阪ホールディングス株式会社、北大阪商工会議所、両市観光協会

学：摂南大学、関西外国語大学

(2) 事業の目標と体系

基本目標	基本的方向	具体的事業
≪基本目標2≫ 多様な働き方に対応したまち	働きたい人、働く人への取組みを進めます	① ラッピング電車事業 ② オープニングイベント事業 ③ PR事業 ④ 体験ツアー事業 ⑤ スタンプラリー事業
	地域を元気にし、応援する取組みを進めます	
≪基本目標3≫ 住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち	資源を活用した交流人口の増加に向けた取組みを進めます	
	自然を愛し、守り伝えるための取組みを進めます	

(3) 個別事業の実施状況

事業	内容と成果	決算額
① ラッピング電車事業	京阪交野線において、7月から10月までの3か月間、「星のまち枚方・交野キキ&ラトレイン」の運行を行った。 (その間の乗降客数は概ね前年並み)	6,048,000円
② オープニングイベント事業	京阪枚方市駅にてオープニングイベントを行った。(ラッピング電車発車式、摂南大学生の企画による手形スタンプイベント、挨拶やテープカット等)	1,512,000円
③ PR事業	ラッピング電車のPR効果を高めるため、京阪交野線における駅舎の装飾を行った。	3,142,000円
④ 体験ツアー事業	交流人口増加のため、両市をめぐるバスツアーを3回実施した(参加者91人)。また、天の川周辺を歩くウォーキングイベントを1回実施した(参加者344人)。その他、農業体験イベントで204人の参加があった。	3,181,236円
⑤ スタンプラリー事業	両市の観光資源をPRするためにスタンプラリーを実施した(応募数1,220通)。景品は両市の特産品を用意。	1,512,000円
	事務委託費用	2,109,742円
	合計(本市と枚方市で1/2ずつ負担)	17,504,978円

(4) 数値目標とKPI

項目 (●:数値指標 ■:KPI)	26年度 (基準値)	28年度			31年度 目標値
		実績値	目標値	達成度	
●年間観光客数 ※	約85万人	1,007千人	95万人	106.00%	110万人
■ツアー延べ参加人数	—	639人	500人	127.8%	—
■スタンプラリー応募数	—	1,220通	300通	406.7%	—
■もう一度交野に訪れたいと思う人の割合	—	87.5%	80%	109.4%	—

※31年度目標値を「基本目標3」に併せて再設定した。(変更前:100万人→変更後:110万人)

(5) 効果の検証

- 当該プロジェクトは、広域での賑わいづくりと観光促進を目的として、本市と枚方市が共同で両市の地域資源をアピールすべく、鉄道事業者とコラボレーションしながらPR活動を展開するなど、これまでにない試みであった。
- 数値目標が概ね達成されたことのみならず、個別事業へ参加した方の満足度も高かったため、地域の観光促進に一定の効果があったものとする。両市にとって、この枠組みは有意義であったとの判断のもと、29年度も存続のうえ、新たな事業展開を図っている。
- 地域の観光客数や観光消費に与えた影響について、データや実績を収集する方法に課題がある。

(6) 委員の意見

- 観光客数だが、どのようにカウントしているのか。星の里いわふねなどの市の施設も観光客数としてカウントされるのか。
- ラッピング列車のコメントで開催時期の乗降客数は前年並みと書いてあったので、残念に感じた。
- 主婦感覚から考えると、これだけの予算を使ってこれだけの効果かと考える。ほしだ園地はアピールしなくてもお客さんは来る。よく市民の中で言われているのは星のブランコに行くお客さんはお金を落としていかない。どれだけ効果があったか疑問である。

3. かたの産業元気プロジェクトの実施状況及び検証

かたの産業元気プロジェクトは、本市の地域課題に対し各種産業団体の強みを活用することで、課題解決とともに産業の活性化を図ることを目的としたプロジェクトで、北大阪商工会議所や商業団体、農業団体、大学などからなる協議会を推進母体として、空き店舗・空き家活用事業、買い物移動支援事業、移動販売事業、集客力向上支援事業などの6つの事業を展開した。

(1) かたの産業元気プロジェクト推進協議会

- ①28年5月に設立された協議会は、産官学及び地域団体等との連携によるプロジェクトの推進組織であり、個別事業の立案と進捗管理を行った。

②構成団体

官：交野市

産：北大阪商工会議所、交野市商業連合会、交野市農業生産連合会、北河内農業協同組合

学：摂南大学

民：区長会、市民活動団体（NPO法人）

(2) 事業の目標と体系

基本目標	基本的方向	具体的事業
≪基本目標1≫ 子育て世代が魅力を感じるまち	子育て・親育ちを応援する取組みを進めます	① 空き店舗活用事業 ② 空き家活用事業 ③ 買い物移動支援事業 ④ 移動販売事業 ⑤ 集客力向上支援事業 ⑥ 商業活性化提案型事業
	子どもがいきいきと育つ取組みを進めます	
≪基本目標2≫ 多様な働き方に対応したまち	起業・創業を応援する取組みを進めます	
	働きたい人、働く人への取組みを進めます	
	地域を元気にし、応援する取組みを進めます	
≪基本目標4≫ 地域を守り、地域の元気をつくるまち	地域の活性化に向けた取組みを進めます	
	地域の健康を守る取組みを進めます	

(3) 個別事業の実施状況

事業	内容と成果	決算額
① 空き店舗活用事業	子育て支援NPO法人が空き店舗を改装し、8月から翌2月までの間、子育て支援（一時預かり）、カフェ、特産品販売所、レンタルボックス等の複合機能店舗を運営。事業全体として月250人程度の利用者があった。また、事業推進のため9名の雇用を行った。	9,745,307円
② 空き家活用事業	創業サポート団体が空き家を改装し、7月から翌2月までシェアオフィスを運営（利用者4名）。付随事業として、起業に関する情報交換会（月1回程度）や、空き家車庫部分を活用した教室やイベントを展開した（16回）。	6,688,448円
③ 買い物移動支援事業	地域の商店街と、山手地域を巡回するジャンボタクシーを運営（6便/日×週4日）。3ヵ月利用可能な乗車券を、商店街のみで利用可能な商品券とセットで販売（1,000円×127人）。	3,202,872円
④ 移動販売事業	農業生産連合会が、地場産野菜の販路拡大のため、地域の集会所等で販売を実施（3地区・1店舗、延べ1,000人以上が利用）。同連合会からの出荷量は平時の1.3倍となり、販売累計は80万円程度であった。	2,724,298円

⑤ 集客力向上支援事業	商工会議所が、市内の商業者・創業予定者を対象に、集客力の向上に役立つ講座及び個別相談を実施。講座内容はチラシの作り方、リピーターの作り方、SNSの活用方法など全6回で、参加者（平均17人）の9割が満足と回答。	1,850,000円
⑥ 商業活性化提案型事業	<p>推進協議会が、市内の商店会や団体から活性化に資する事業提案を求め、審査のうえ直接補助を行った（補助率75%、提案8事業の内6事業採択）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 商店会組織強化のため、会員名簿作成等 ● 商店会店舗の利用促進のため、ハロウィンパレードやレシートラリーなどのイベントを実施 ● 商店会店舗の紹介のため、ゆるキャラ（おりひめちゃん）を使ったPR動画を作成、SNS配信 ● 商店街における賑わいづくりのため、子どもみこしを実施 ● 商店街の景観イメージ統一化のため、街路灯にゆるキャラデザインを添付 	6,692,398円
	事務委託費用	3,517,493円
	合計（全額国の補助）	34,420,816円

（4）数値目標とKPI

項目 (●：数値指標 ■：KPI)	26年度 (基準値)	28年度			31年度 目標値
		実績値	目標値	達成度	
●交野市在住女性（30～34歳）の就業率	54.80%	63.16%	56.88%	111.04%	60.00%
●交野で雇用創出が必要だと思う人の割合	75.40%	74.71%	72.40%	未達成	67.90%
■チャレンジ店舗の利用者から起業・創業した店舗数	—	9店舗	1店舗	900%	—
■アンケートによる商店街各個店の売り上げ増加率	—	※	10%	—	—
■提案制度による採択数	—	6件	5件	120%	—
■空き家ビジネスとして雇用了た数	—	10人	2人	500%	—

※交野市商業連合会加盟の220社へアンケートを実施。概ね10%の店舗が5～10%程度売り上げが増えたと回答。

(5) 効果の検証

- 当プロジェクトは、地域課題を各種産業団体の強みで解決し、あわせて産業の活性化を図ることを目的とするもので、取り扱う地域課題は、大きく「空き店舗・空き家の活用にかかる課題」、「山手地区における日常的な買い物にかかる課題」、「商店街等の地域商業活性化にかかる課題」の3つであった。
- 「空き店舗・空き家の活用にかかる課題」については、市内の空き店舗等を活用し、一定のニーズが見込まれる「①一時預かり機能付き子育て支援カフェ」と「②シェアオフィス」を実施した。それぞれ、民間ノウハウを生かした取り組みにより、一定の成果を上げつつあったが、短期間ということもあり、収益とテナント料との収支バランスを構築することができず、2月をもって撤退となった（ともに他の場所にて事業継続中）。結果として2事業で1,600万円を投入しており、「空き店舗・空き家の課題解決」と「地域産業活性化」に対する成果とコストとのバランスには課題が残り、当該課題への対応方法について再考する必要があると考える。
- 「山手地区における日常的な買い物にかかる課題」については、高齢化率の高い山手地区において、住民の生活の足を確保する観点から「③ジャンボタクシー」、買い物場所を確保する観点から「④集会所での地場産野菜販売」を実施した。ともに一定の成果があったものの、社会実験的な要素が強く、③については想定より利用者が少なかったこと、④については野菜の移動販売に伴うコストが売上増加分を上回ったこと、などのコスト面の課題が重く、③は事業継続に至らなかった（④は1地区のみ29年度も継続中）。山手地区住民に対する事業の必要性はあるものの、現時点においてはビジネスベースに乗るほどのニーズが無かったものと考えられるため、課題解決への対応方法について再考する必要がある。
- 「商店街等の地域商業活性化にかかる課題」については、個別の商業者に対し集客力・販売力を伸ばしてもらうための「⑤講座・相談支援」、商店街全体の活性化を促すための「⑥提案型補助」を実施した。⑤については、著名な講師を招いたこともあり、多くの商業者や創業予定者が参加し、参加者の満足度も高いものとなった。⑥については、一定の要件の元、商店会からの自発的な取組みを募集し、地域の特性を生かした活性化策が実施された。これらの事業は、商業活性化に対し即効性のあるものではないが、商業者や商店会の自発的な取組みを支援していく体制は必要と考えられる。
- 数値目標は概ね達成されたが、地域課題の解決と産業振興に向けて、29年度においても、形をかえつつ継続的な取組みを行っている。

(6) 委員の意見

- 空き店舗と空き家活用の予算が大きい割に効果が出ていない。やる際に話し合われたのか疑問である。次年度につながっていくものでないと交付金の使われ方としてはよくない。
- 9店舗の起業創業したのがどういう事実なのか。これだけ起業したのであれば、非常にユニークな取り組みだといえる。
- 商業会の会合などで起業の話は出るが、お金の問題が大きい。市の補助を受けてやると補助の期間は続くが、なくなると続かない。

[議題3] 30年度に国への申請を予定している地域再生計画（案）の説明

1. 地域再生計画とは

- 地域経済の活性化、地域における雇用機会の創出その他の地域の活力の再生を総合的かつ効果的に推進するため、地域が行う自主的かつ自立的な取組に関する計画。
- 内閣総理大臣の認定を受けることで、当該地域再生計画に記載した事業の実施に当たり、財政等の支援措置を活用することができる。
- 「地方創生推進交付金」の交付を受けるためには、地方公共団体における「まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略）」に基づく先導的な事業を盛り込んだ地域再生計画を策定する必要がある。
- 地方創生推進交付金の補助率は1/2であるが、残り1/2の地方負担については、地方財政措置（特別交付税等）により措置されることとなる。

2. 本市において求められる地域再生計画

本市総合戦略に基づき、地域の活性化や魅力向上につながる計画を策定する。

- **本市総合戦略における4つの基本目標との整合**
「子育て世代が魅力を感じるまち」、「多様な働き方に対応したまち」、「住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち」、「地域を守り、地域の元気をつくるまち」
- **28年度に実施した加速化交付金事業の考え方継承**
枚方市、京阪電鉄と連携した広域観光事業「天の川ツーリズム」、商工会議所や市内事業者と連携した産業支援事業「かたの産業元気プロジェクト」
- **国が定めた申請要件との合致**
自立性、官民協働、地域間連携、政策間連携等の先駆的要素内包の仕組み
- **計画のイメージ**
本市最大の地域資源である自然環境を、健康増進や産業活性化の観点から捉え直し、市の魅力向上を図るとともに、定住・移住人口及び市民満足度の向上を目指す。

3. 「かたのツーリズム」を軸とした地域再生計画の方向性

【29年度の状況】

- (1). 現在の「かたのツーリズム」は、総合戦略の基本目標3「住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち」、基本的方向「資源を活用した交流人口の増加に向けた取組みをすすめます。」に位置付けられている事業。(所管課：地域振興課、企画運営：観光協会)
- (2). 28年度は市外住民を対象に交野山ナイトハイクを行う企画として募集をかけたが、申し込みが不調のため順延せざるを得ない結果となった。
- (3). 29年度には、運営主体である観光協会がプロモーションを民間企業に委託。内容も、ツリークライミング（用具を使った木登り）、第二弾はSUP（スタンドアップパドルボート）、第三弾はフォトゲイニングなど、専門的かつ新鮮なアクティビティを組み込むなど改善を図っている。
- (4). 主として市外住民に対して情報発信を行い、第一弾は101人、第二弾は73人の申し込みがあり、10月に予定される第三弾は250～300人規模を予定している。

【地域再生計画の方向性】…30～32年度の3年間を予定

【基本目標】

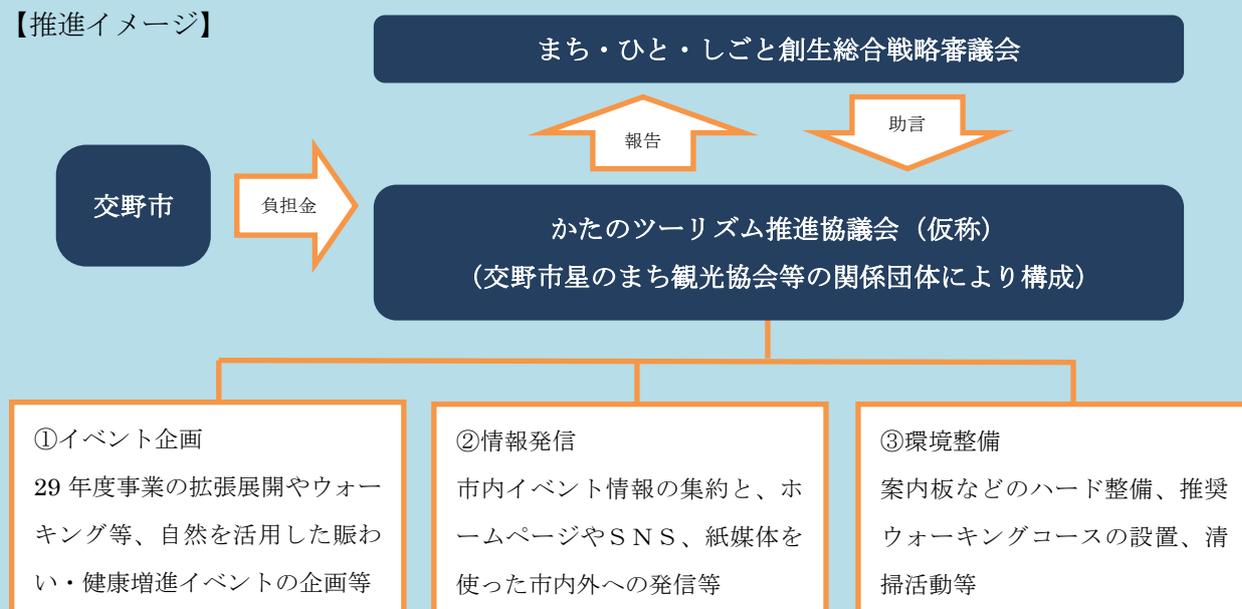
住みたいまち・行きたいまちとして選ばれるまち

地域を守り、地域の元気をつくるまち

【計画内容】

本市が誇る自然環境を活用した賑わい創出事業「かたのツーリズム」を核として、関係機関の強みを連携し、「交流人口の増加とまちのイメージ向上」、「市民の健康増進と地域の活力アップ」を目指す

【推進イメージ】



継続的に収益をあげる仕組みを構築し、再生計画終了後も持続する体制を目指す。

4. 計画策定スケジュール（予定）

時 期	内 容
9 月	総合計画審議会への報告、事業設計・費用の算定
10 月	事業費用の確定、再生計画素案・実施計画書の作成
11 月	再生計画案の確定
12 月	パブリックコメントの実施、内閣府との事前相談会
1 月	内閣府への申請
2 月	再生計画認定、交付金交付決定
3 月	3 月議会にて予算化
4 月	事業開始

5. 委員の意見

- 交野市そのものにお金が落ちる仕組みを考える必要がある。私の知り合いも交野に来て、星のブランコに行くが土産物もないし物産もない、非常に利用しにくい駅であるといわれている。私市駅に何か買い物ができる施設があればいいなと思う。
- 交野をめぐってもらふ目的は市の魅力を見つけてもらい、いずれは移り住んでもらうことが目的だと思うが、その目的につなげてもらふものが無いのではないかなと思う。それぞれのイベントだけに終わってしまっている気がする。加速化交付金の実績も踏まえて検証してほしい。
- 今みどりネットで環境を考えている中で、交通弱者のために自転車ネットワークを作っていけたらと考えている。例えばぶどう狩りサイクリングピクニックというようなアイデアもあるので、そういうアイデアを出す場所があれば出したい。
- かなりイベント性が高いので、200人規模の人が入ってきて、自然を守るという観点で言えば環境への影響も検討してほしい。